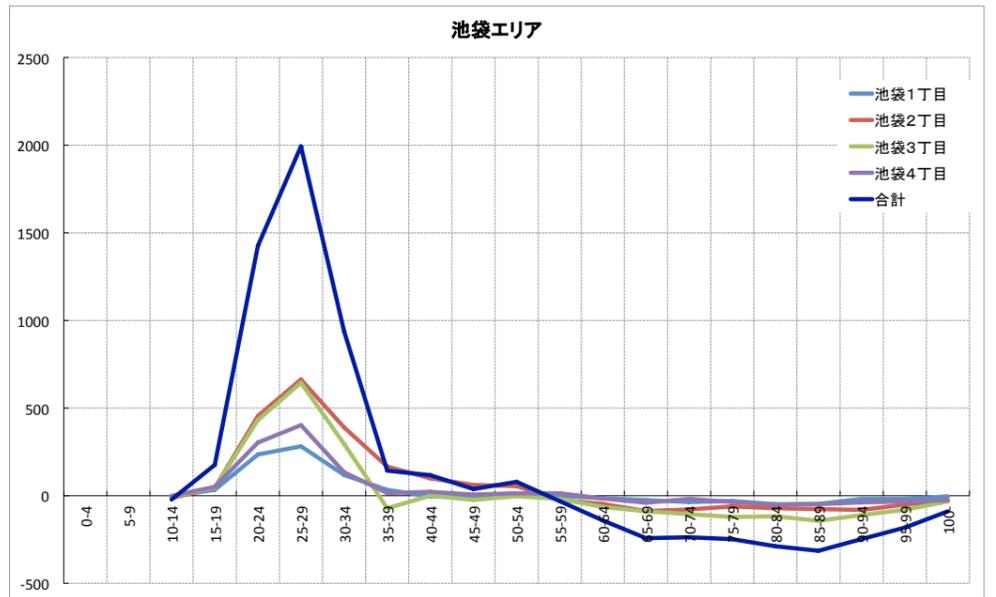
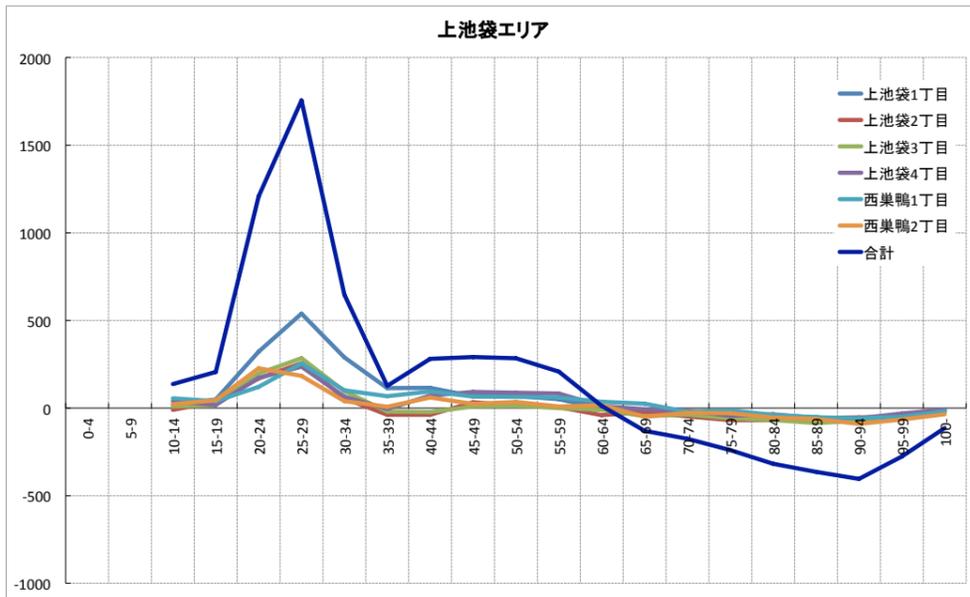
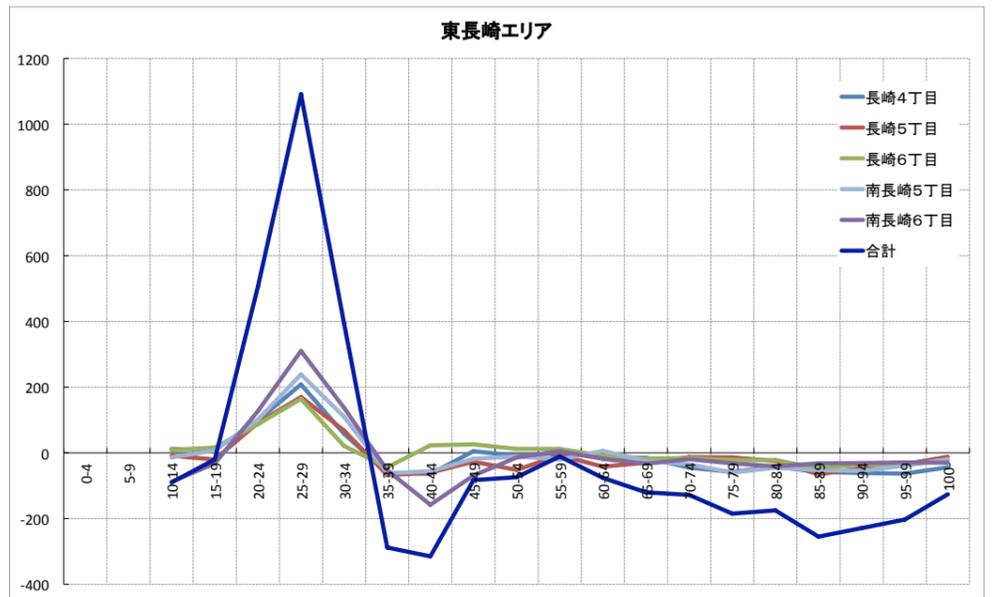
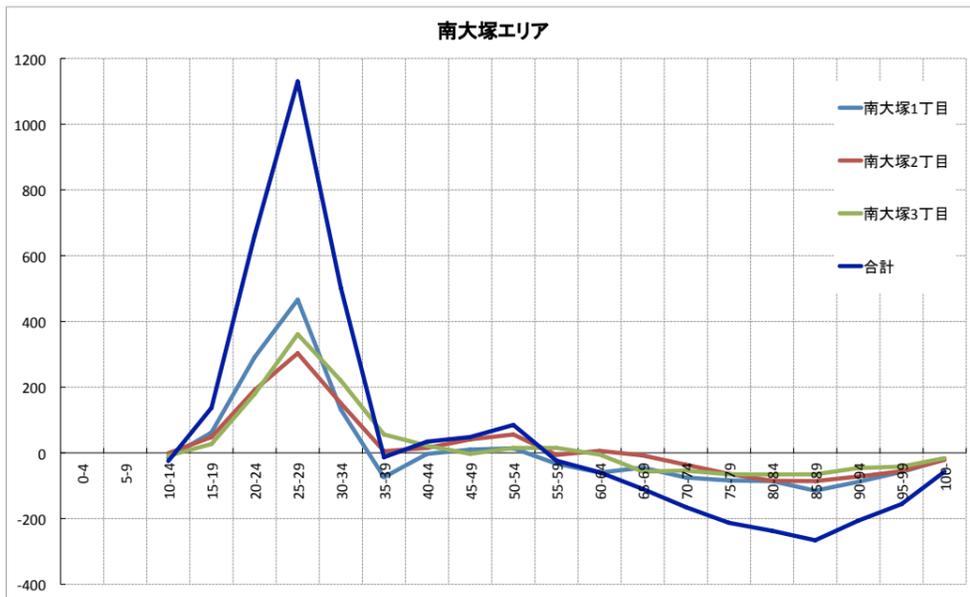
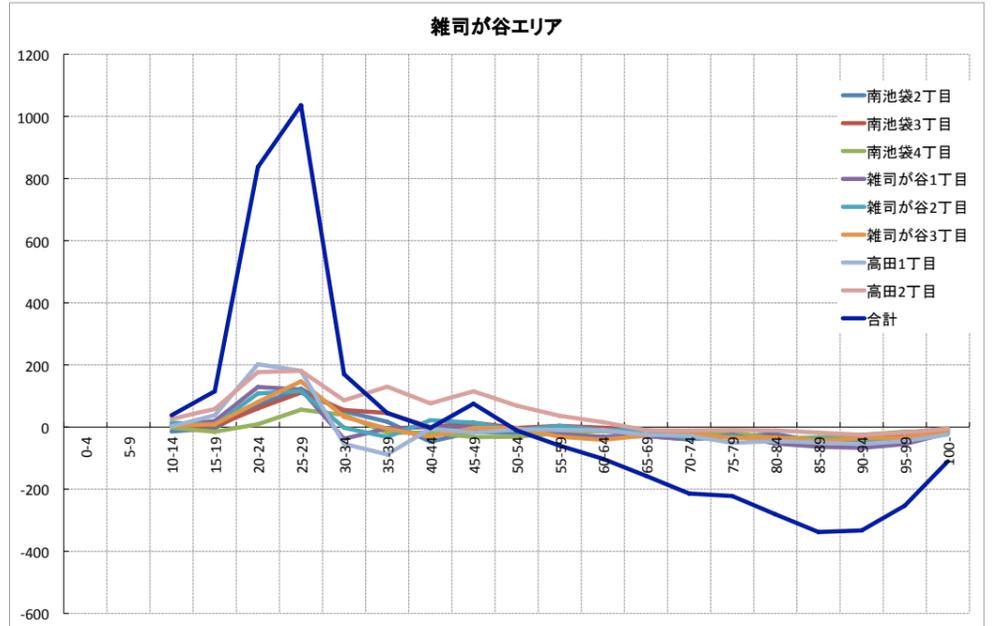
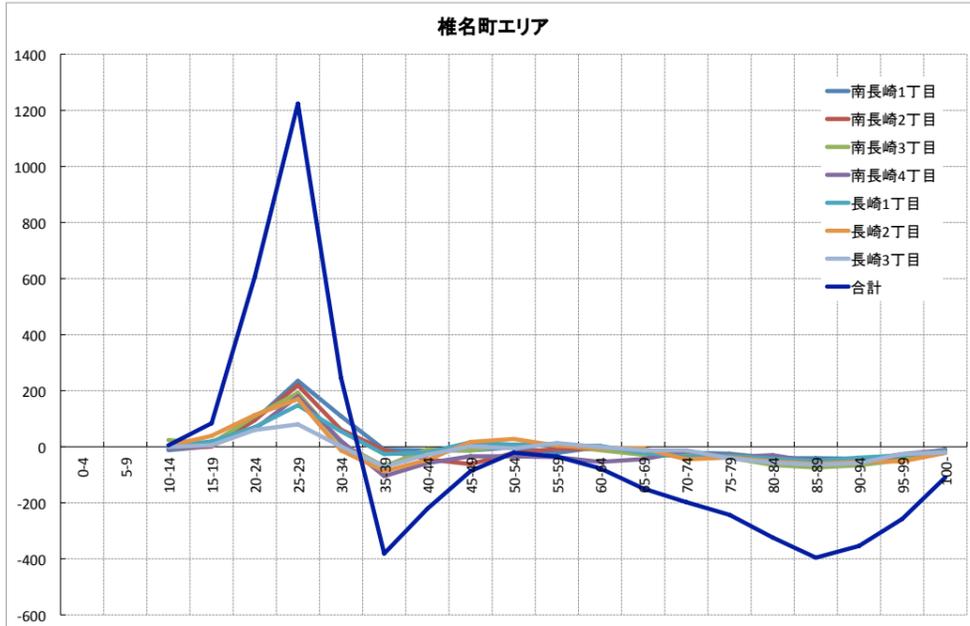
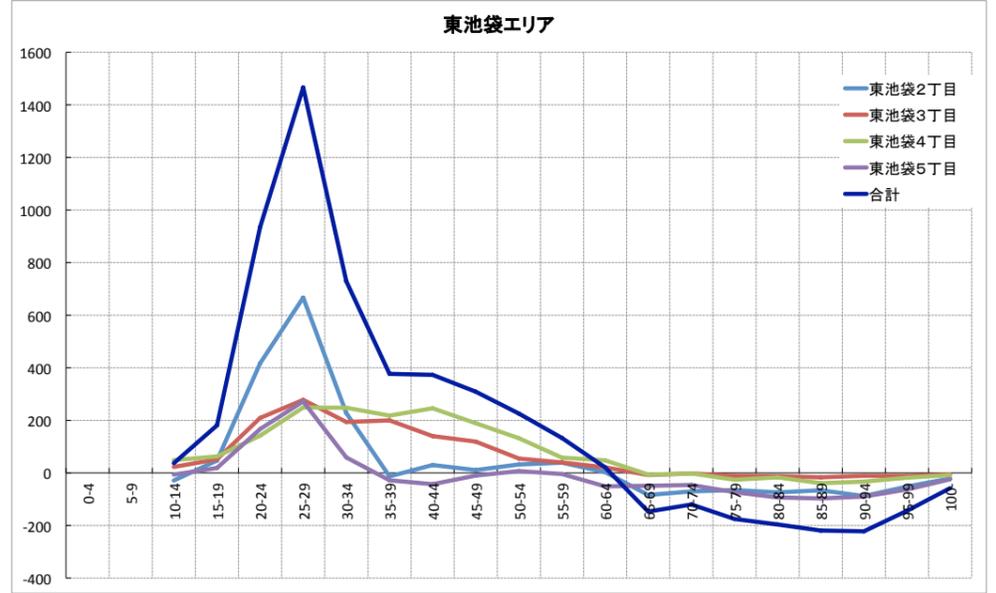
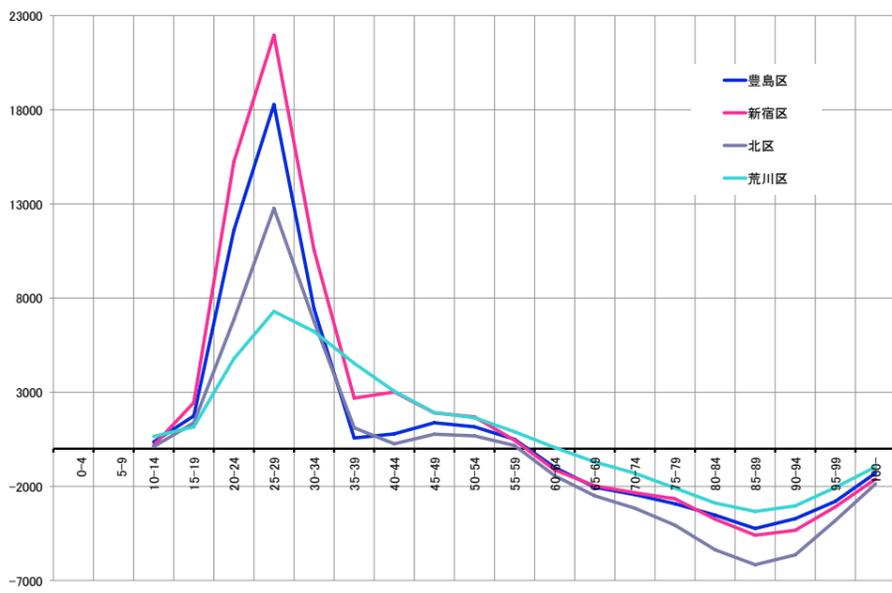


豊島区内7エリアのコーホート分析 (H16-H26, 住民基本台帳)



- ・平成26年は、外国人居住者が算入されているため、全体的に流入傾向が強まっている。
- ・平成16年に20代、30代だった人が子育て期に入った頃の人口移動を表す。
- ・全てのエリアで若年単身世帯(学生・就職世代)の流入が突出して多い。
- ・椎名町、東長崎エリアでは子育て世代以降の流出傾向が顕著である。
- ・雑司が谷エリアでは高田1丁目以外は、子育て世代以降が流出傾向にある。

- ・上池袋エリアの子育て世代の流入は、西巣鴨1・2丁目ですべて支えられており、上池袋1～4丁目では、流出もしくは横ばい傾向にある。
- ・東池袋エリアは、東池袋5丁目ですべて子育て世代が流出傾向にある。
- ・子育て世代以降の流出が顕著な椎名町・東長崎エリアでは、今後、急速な高齢化の進展によるコミュニティの衰退、防犯・防災上の懸念が生じる。